1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	平成会		
事業所名	グループホームハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	2019年7月27日	評価結果市町村受理日	2019年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&J_gyosyoCd=2170200485-008&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	2019年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは周りが自然に囲まれた環境であり、四季折々の草花が咲き、自然を身体いっぱいを感じる事ができます。特に敷地内には畑が3箇所あり、ご利用者様と一緒に家庭菜園ではその季節にあった野菜や果物を育てて収穫し、調理して食卓へと提供する事を行っており、野菜作りで季節を感じて頂くと共に作る楽しさや収穫する楽しさ等も感じて頂いています。通常食事は提携業者からの料理を提供する事で変わらぬおいしさや安心した栄養バランスを実現し、さらに食べ物を作る機会をなくさない様、月に1度おやつや昼食等を作る行事を実施しています。ボランティアの協力によるお楽しみ会を月に1回開催し、民謡やマジックショーなど様々な活動を観賞したり、和手芸など物作りも楽しんで頂ける様に実施しています。さらに併設施設との交流により相互にお楽しみ会等の催し物の活動に参加しています。又、施設内の活動のみではなく、地域との交流が図れるように年に1回地域交流会を開催する事や地区のお祭りへの参加など地域との交流も積極的に実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の新しい理念を基に各自が目標を立て、利用者が家庭的な暮らしを安心して過ごせる支援に取り組んでいる。運営推進会議は行事に併せて開催し、家族が参加し易くして多くの意見が得られるよう工夫している。議事録と利用者の様子を定期的に送付し、家族の訪問する機会を作る工夫をして家族との信頼関係を築いている。多くの方の協力を得て地域交流会を開催し、積極的に地域と交流している。小・中高生のボランティアや看護学生の実習を受け入れ次世代の育成にも努めている。音楽療法、ボランティアによるお楽しみ会、野菜づくりや外出など日中の活動が利用者のADLの向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度中は法人の基本理念のみであったが、新たにグループホームとしての基本理念「職員も家族の一員となり優しい眼差しと温かい手で我が家にいるような安心感を感じられる暮らしを支援します。」を掲げ利用者支援を実施しています。	今年度は事業所独自の理念を全職員で話し合っつくり、各自が個人目標に組み入れている。家族の一員として寄り添い利用者が安心してすごせる支援に取り組み理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回実施しているお楽しみに地域のボランティアグループに依頼し活動の披露や年に1回開催している地域交流会には下有知地区の方々が参加するだけでなく中学生や高校生に運営側としてボランティアに参加して頂く等、近隣地区との交流が保てるように努めています。	事業所主催の地域交流会を中高生や地域のボランティア、住民と協力して地域のふれあいセンターで開催し交流をしている。地域行事の夏祭りには職員がボランティアとして参加し、ふれあい文化祭には利用者の作品を出展し見に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の福祉大学や看護学生の実習先として公開すると共に、大学生への実習に関する講義も依頼がある時は実施させて頂き次世代の育成に努めている。又、地域の小・中・高の学生のボランティア活動の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用者様の日々の活動の報告や行事を運営するに当たってご家族様との相談、ご利用者様やご家族様からのご意見を頂いています。会議で得た情報はワーカー内で共有し業務改善やケアの質の向上を目指しています。	運営推進会議には利用者・家族の参加が多く、苦情相談員の参加もある。事業所の現状報告をして参加者全員から感想や意見を貰っている。民生委員より事業所から一般道に出る所が危険との指摘を受け法人と相談して改善した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回開催している運営推進会議にて高齢福祉課職員や地域包括支援センター職員をお招きし直接お会いしながら情報の共有を図ると共に、必要な情報については随時メールや電話にて連携をとっています。	日頃はメールや電話で連絡を取りあっている。書類の提出など出向いた時や直接会う機会には、事業所の実情を伝え相談する時もある。市町村からの研修などの案内には参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内の鍵の施錠については夜間、職員が一人に対応する時間帯のみ実施。身体拘束をしないケアについては人権擁護委員会を中心に身体拘束を実施しないケアを継続しています。	法人内の人権擁護委員会に出席して身体拘束をしないケアを共有して取り組んでいる。言葉の拘束をしないように心がけ、利用者の尊厳を守ることに努めている。言葉づかいや対応が気になる時はその場でお互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で実施される研修や外部機関が実施する研修会への参加を通して知識の向上を図っています。又、玄関先にパンフレットを設置し、ご相談があった時には説明をするようにしています。		

グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内での研修会や外部機関が開催する研修会で学んだ知識を会議の場を活用して伝達し理解を深めています。又、上司や先輩職員からのアドバイスも随時実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす時はご家族様のペースに合わせゆっくり丁寧に説明を行います。疑問点が残らないように不安な点がないかを確認しながら進めていきます。又、説明をしていく中でご家族様の表情にも注意し必要時に声をかけご理解を頂ける様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中から出てくるご利用者様の気持ちを拾い上げ、ケース記録に記入し情報共有すると共に、運営推進会議の場でもご意見がいただける様に対応している。	運営推進会議を事業所の催し物、家族会等で開催し家族が参加し易くして意見を聞いている。また、家族の訪問する機会を多く作り担当職員と話しやすい関係を築いている。出された要望などは会議で検討して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回上司と職員で個人面談を実施し日頃の思いや業務に関する意見を発信できる場を設けている。又、それ以外でも随時業務に関する意見や提案を貰いワーカー全員でより良いグループホームになるよう努めている。	管理者は日常業務や会議で職員の意見や要望を聞いている。職員との個別面談で目標の達成度を確認し思いを聞いている。修繕に関する意見を取り入れたり、勤務時間や夜勤に関する要望には個別に調整したりして改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の目標に沿った部門目標・個人目標を設定し、各職員のやる気を引き出す取り組みを行っている。又、日々の業務の姿や個人面談を経て職員一人ひとりを適切に評価する事でキャリアアップの支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催している職場内研修を通して知識向上を図ると共に外部研修への参加も積極的に行っている。OJTによる業務指導を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、他施設との意見交換や交流を図ってます。又、近隣の大学が主催するグループホーム運動会には関市内のグループホームが10施設程集まり、その運動会に参加する事で他施設との交流も図っている。		

グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際、落ち着いて話ができる場所を配慮し、利用者・家族様共に思いを傾聴する様努めています。傾聴した思いは事前面接記録を通し全ワーカーで周知。さらに担当職員を中心にご本人が安心できる関わりを模索しケアマネを通してケアプランに落とし込んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接やサービスの契約の時に家族の思いや不安・困っている事などを傾聴すると共に必要な時には助言をしています。連絡体制をケアマネや管理者から徐々に担当職員へ移行し主な連絡先を担当職員に一本化する事でご家族様とのより良い信頼関係の構築を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の話聴きながら、思いやニーズを引き出し、併設施設の相談員共連携を図りながら利用者・家族にとってより良いサービスを利用して頂けるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外出をし、一緒に喫茶を楽しんだり、家庭菜園やグループホーム内の掃除をご利用者様と一緒にしています。さらにはご意見を聞きながらおやつや食事を一緒に作る等、職員・利用者が共にグループホームでの生活の時間を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来所した時や年4回発送する近況報告書にてご利用者様の様子をお伝えしています。又、年2回開催する家族会(外出行事・運動会)さらに地域交流会では多くのご家族様に参加して頂き、利用者・家族・職員が同じ時間を共有できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム入所後も外泊や外出が自由に行える事を家族へ発信し、ご本人の馴染みの関係性が途切れないように促しています。又、一月に一人ずつですが本人の要望に合わせて個人外出を実施し、馴染みの場所での買い物やお墓参りなど利用者の要望に合わせています。	利用者の馴染みの場所や外出先の希望を聞いてお墓参り、買い物、喫茶店などに出かけている。法人内のデイサービス利用者の知人の訪問もあり、馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の活動の中で利用者同士が関わりあえる様職員が間に入り橋渡しをしています。又、食事の時間では職員も一緒にテーブルにつき、関わりを広げています。		

グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後もお楽しみ会や地域交流会へ気軽に参加して頂けるよう声掛けを行っています。又、ご家族様によってはボランティアとしてご協力頂く時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接記録からの要望の確認や日々の会話の中で思い等から利用者の意向を把握し対応をしています。聞き取れた思いはケース記録に記載すると共に全ワーカーと情報共有を行っている。	日々の何気ない会話からや入浴時、夜勤時間などに思いや希望を聴いている。思いを伝えるにくい人には聞き方を変えたり、答えやすいように問いかけて思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接にて家族やご本人から聞きとり、生活歴や環境、馴染みの暮らしの把握を行っています。面接を担当した職員が作成する事前面接記録を基に全ワーカーが情報を把握すると共にホームでの生活の中で知れた新たな情報がある時にはケース記録に記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の変化をケース記録に記載すると共に、月に一度ケアプランのモニタリングをケアマネジャーと相談し実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや要望を聞き、担当職員・家族・ケアマネ・医師・看護師と連携を図りながらご本人のニーズが反映されるよう検討してケアプランをケアマネが作成しています。月1回のモニタリングと半年に1回のカンファレンスを通してプランにズレがないか検討している。	担当職員が利用者・家族の希望を聞き、毎月行うモニタリングを基に会議で話し合って介護計画を作成している。モニタリングから見直しの必要が生じた時や状態変化時は医師や看護師の意見も取り入れて検討し必要に応じて変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や職員からの気づきをケアマネに伝え月1回モニタリングを実施し、さらには半年に1回ケアプランの評価を行っている。それらを踏まえて半年に1度カンファレンスを開催しプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応は基本的に家族送迎であるが、車椅子での受診など通常の車では難しい時には可能な範囲で送迎対応も行っている。又、車椅子やシルバーカーなどの福祉用具も併設施設と協力し、本人に合っていれば併設施設の物も使用可能である。		

グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民踊やフラダンスなど地域のボランティア活動を活用して毎月のお楽しみ会を開催し利用者様に楽しんで頂く時間を設けています。又、近隣でのお祭りや行事がある時には積極的に参加できるよう計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面接時にかかりつけ医について家族の要望を確認し対応しており、協力医療機関以外でも受診に行く事は自由です。「かかりつけ医」の連携の下、体調管理・体調不良時の24時間体制、重症時には地元総合病院への紹介連絡協力も行う。	家族の付き添いで入居前のかかりつけ医を受診する利用者もいる。利用者の状態を文書で伝え、結果報告を受けている。協力医とは定期的な訪問診療と急変時の連絡がとり易く往診もあり安心である。総合病院との連携も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回バイタル測定に併設施設から看護師が来所、体調の把握・管理を行っている。又、日々の体調の変化などはその都度看護師へと報告し本人に合ったケア実施している。夜間帯に体調の変化についても連携を図り急変時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は職員が週1回の間隔で面会に訪問し看護師や家族、医師と情報共有をすると共に、本人や家族の相談対応も実施する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間、365日の連携体制を確立。又、併設する特養看護師にも24時間連絡を取る体制にある。家族には夜間付き添いなどの協力を依頼し、協力医・看護師・家族・職員と連携しながら終末期ケアを整えている。	契約時に重度化や看取りに関する指針の説明をしている。状態の変化に応じ医師や看護師から家族に説明をして貰い意思の再確認をしている。「人生の最期は家族と一緒に」の思いから家族の協力も得て支援している。宿泊も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内で開催している研修会で年2回心肺蘇生法の訓練を行い、応急手当の知識を習得しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームのみで実施する避難訓練が年2回有り、ハートフル全体で実施する避難訓練が年2回あります。合計年4回の避難訓練に参加し日中の対応・夜間の対応それぞれ訓練する事で災害時に迅速な対応が取れるように努めています。	事業所単独と法人の合同避難訓練を実施し夜間想定も行っている。消火器の使い方や不審者進入時の防犯訓練も行っている。食料、衛生品の備蓄は各事業所で確保している。法人の併設施設との協力体制があるため地域との協力体制づくりへの取り組みがない。	併設施設との協力体制に加えて地域住民の協力が得られるように、様々な機会呼びかけて地域との協力体制づくりに取り組むことを期待したい。

グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話の際はご利用者様との目線が合うように高さを合わせ相手のペースに合わせて話しをしています。又、ご利用者様は人生における大先輩である事を念頭に置きつつ丁寧な言葉使いだけでなく同じ空間の中で生活する家族として親しんで頂ける様な言葉がけに気を付けています。	丁寧な言葉づかいに心がけ、家族の一員として暮らす思いから親しみのある対応にも配慮している。利用者が洗濯物をたたむ時は、下着などは職員がたたみプライバシーに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分から思いを表現する事が難しい方には自己決定しやすいように質問を工夫し関わっています。その他にも入浴の着替え等は自分で選択して頂けるようにご自身で準備を行って頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方はご利用者様の自由とし、希望時は居室で過ごす時間も大切にしています。アクティビティも提供しますが参加自由であり、中には見学する方もおられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分のお好きな髪型になるよう、髪が長い方には髪の縛り方やアクセサリーのつけ方等要望を聞きながら整容を行います。又、ご希望時には入浴日以外でもお好きな服へと着替えも行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けをご利用者様を交えて行い、食事のメニューについても会話に取り入れる等し楽しみな気持ちを引き出すよう関わっています。食後にはお盆や鍋をふきんで拭く事も実施する事で毎日の生活の中で食に関わる事が出来るように努めています。	食材は委託で、月に一回は利用者の好みによる献立で会話をしながら食事を楽しんでいる。事業所の畑で採れた野菜を利用者と漬物などを作り、朝食の一品になっている。おはぎ、おやつなどを一緒に手づくりして楽しむように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者からの食材を提供する事で一日を通して栄養バランスの取れた食事を提供しています。又、一日の中で小まめな水分補給が出来るように食事以外にもお茶などを提供しています。食事が進まない方へはご本人の嗜好に合わせて個人で購入されている漬物なども提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と臥床時は歯ブラシを使用した口腔ケアを実施しており、食後については洗浄液を使用した嗽を行っています。必要な方へは職員が見守りや介助に入り義歯洗浄なども行います。		

グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にてトイレを利用される方については利用時の時間をチェックし排泄パターンの把握に努めると共に、ご自分からはなかなかトイレを利用されない方については定時でのトイレ誘導を実施しています。さらには排泄チェック表を確認し早めの声かけも行っていきます。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りや声かけによりトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレを使用する人もあるが、時間を見計らってトイレ誘導し排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量の基準を目安に水分摂取が出来るように促しています。又、水分だけでなく日々の活動の中で体操や散歩を取り入れ身体を動かす場面を増やしています。ご利用者様によっては毎日ヤクルトを1本飲用されています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回は入浴が実施できるように週の予定はたてていますがその日の気分や体調に合わせて臨機応変に対応しています。又、入浴時には周りを気にせずじっくりとお話して下さったり歌を歌うなど楽しみを持って頂けるように支援しています。	木曜日以外毎日入浴があり希望にそって対応している。嫌がる人には、誘い方を工夫したり、時間や日にちを変えたりしている。同性介助に努め、話をしたり、歌をうたったりしてゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や活動の後など希望される時は自由に居室で静養して頂いたりソファで過ごすなど身体を休める時間も大切にしています。休息だけでなく日中の生活にメリハリが持てるように声掛けの支援も行っていきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はグループホーム内でお預かりし、管理すると共に医師の指示にて適切な配薬をしています。新しく処方された薬は職員間で把握できるように処方箋の確認と共に申し送りも行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店や買い物など外出を希望される時には日程の調整をしながら外出が行えるように支援しています。又、生活の中での役割として洗濯物や掃除、食材の盛り付けなど様々な活動をご利用者様と一緒にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な買い物や喫茶店など外出の支援や地域で開催されるイベント等催し物への参加、家族会などを実施してご利用者様の要望に沿った支援を行っています。又、一月に一人ずつにはなりますが担当職員とご利用者様で実施する個人外出も行っています。	法人敷地内の散歩、野菜づくりや収穫、併設施設のイベントや地域行事の参加など外に出る機会が多い。利用者の希望で買い物や喫茶店、外食にも出かけている。家族会の催し、初詣、花見やブドウ狩りなど季節毎の外出も家族と協力して支援している。	

グループホームハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホーム内での預かり金から外出時など希望される時に自由に使用できるように支援すると共に、希望される方へは個人の財布でお金を所持して頂く事も可能です。又、アクティビティを通じてお金を使う感覚を忘れないよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からご希望がある時にはグループホーム内の電話の利用や公衆電話までの付き添いを行いご家族やご友人との会話ができるよう支援しています。又、年4回発送する近況報告書に合わせてご利用者様からの手紙を添える事も随時行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲が自然に囲まれた環境を活かし、皆さまが過ごす共用フロアでは四季を感じて頂けるよう外の環境整備も行っています。又、室内は常に明るく外気が入るように調節しています。	食卓から離れた所にソファを置いて、気の合った者同士や一人で過ごせる場所を作っている。畳コーナーで小物づくりや洗濯物をたたんだり、テレビを見てくつろいだりしている。家庭的な雰囲気を大切にして、柿やブドウの壁飾りなど季節毎の作品と一緒に作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にはテーブルだけでなくソファも設置し好きな場所を選択して過ごして頂いています。ご利用者様同士の会話ができるように席の配慮を行い必要な時にはテーブルの配置などの変更も行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前面接の時に必要となる家具や食器類について説明し、ご本人が使い慣れた物を持参して頂ける様に発信しています。居室内のレイアウトについても使用されるご利用者様が生活しやすいよう職員・ご利用者本人・ご家族様と相談しながら好きな形をとっている。	居室の窓は大きく日当たりよく、網戸にして換気を行っている。テレビやテーブル、時計など使い慣れた物を置き、家族や自分の結婚式の写真、つり雛や小物の作品など飾っている。洗面台があり、口腔ケアや化粧などを各自で行う人もあり思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様一人ひとりの状態に合わせた対応を心がけており、部屋が分からなくなる方には居室の入り口に表札をつけたり、トイレの位置を分かりやすくする様に大きな文字で表示する等工夫をしています。		